

	課題分析	授業改善策
国語	- 自分の考えをすすんで発表しようとする児童の意欲を引き出す指導に課題がある。 - 児童が目的意識をもって「話したい」「聞きたい」「書きたい」と思えるような授業を展開していく必要がある。	- どの学年でも、モデル映像やモデル文を工夫し、児童がそれらを参考にしながら「自分の力でできた」と思えるようにする。低学年では、楽しみながら思いや考えを伝え合う素地を育む。中・高学年では、いきなり全体発表にせず、ノートやワークシート、付箋、ICT 端末等にまずは自分の考えを書く時間をとる。「書けた＝言える」状態をつくることで、発表への自信と意欲をもたせる。 - ICT を活用して書字への抵抗感を減らしたり、視覚的・体験的な題材を意図的に用いたりして教材の工夫をする。 - 領域問わず、言語表現する時間を計画的に設定する。
社会	- 地図や資料、グラフなどから必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめる力を伸ばす必要がある。 - 学習したことを日常生活や社会的事象と関連付けられるように、指導を行っていく必要がある。	- 中学年では、地図やグラフなどの資料の見方、読み方が身に付くよう、デジタル教科書を活用し、読み取り方のポイントを確認していく。高学年では、教科書や資料から読み取ったことについてタブレットを用いてまとめ、グループで話し合う活動を計画的に設定する。 - 普段の生活での出来事やニュースなどを取り上げ、学習したこととの関連性を考えさせ、気付かせる時間を設定する。
算数	- 文章題の題意を理解し、筋道を立てて説明できるようにする指導に課題がある。 - 基礎的な計算の習熟を図るための時間を設定しきれない。	- 低学年では具体物の操作、中・高学年では数直線を用いて問題を解決したり、既習事項を用いて説明したり、全体の理解を深めさせる時間を確保する。その際、ICT を活用して考えを共有する時間を確保する。 - 課題解決型の学習と基礎的な計算の習熟を図るための時間を 1 単位時間や単元の中で計画的に設定する。
理科	- 児童が自ら疑問をもって解決できるよう、興味・関心を高めさせることに課題がある。 - 実験・観察の目的を児童が把握すること、実験後の考察で法則性を見付けたり、日常生活との関連に気付いたりすることに課題がある。 - 学んだことを定着させることに課題がある。	- 単元への興味関心を深められるような導入の工夫をする。必ず予想を立てさせ、課題が明確になるようにする。 - 考察の評価基準を示して、何をどう書けばよいか分かりやすくする。また、優れた考察を共有し、自己の書いたものと比較できるようにする。 - タブレットでの調べ学習を通して、単元の学習内容をつかみ、学びの見通しをもたせる。
生活	- 気付いたことや自分の考えを表現する力を身に付ける必要がある。 - 交流活動において、グループ活動が苦手な児童への支援をする必要がある。	- 教師が手本を示したり個別に対応したりして、児童の思いを聞き取りながら、児童の思いや願いが表せるように手助けをする。また、ICT を活用し、写真を取り入れた観察カードの作成も取り入れる。 - 早めに計画を立て、発表練習のための時間を十分に確保することで自覚を高め、自信をもって臨めるようにする。また、意図的にグループを設定し、グループの児童同士で交流の支援をしていく。
音楽	- 歌唱の活動では、曲の特徴や雰囲気を感じ取り、それにふさわしい表現を工夫し思いや意図をもって歌うことができる技能を身に付ける必要がある。 - 合奏の活動では、楽譜を見て演奏する技能、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けるとともに、技能の基礎・基本を定着させる必要がある。	- 範唱を聴いたり、呼吸や発音の仕方に気を付け、響きのある声で歌ったりする技能を身に付けつつ、曲にふさわしい表現が工夫できるようにする。 - 音符・休符・記号を含んだ楽譜に親しみ、演奏活動に必要な運指や体の動きを身に付けたり、タブレットで動画撮影をしたりして、自ら課題解決ができる活動を設定する。
図画工作	- 低学年から高学年に向けて題材の系統性をより高めるために、身に付ける資質・能力を明確にして指導に当たる必要がある。 - 図画工作科の特性を生かした指導に向けて、導入や展開、まとめにおける指導法の工夫などを中心に教科理解を高める必要がある。	- 学習指導要領解説図画工作編を基に図工専科が資料を作成し、低・中学年の指導者と図画工作科で育てたい資質・能力についての情報を共有する。 - 図工専科を中心に、図画工作科の特性に関わる資料をタブレット等で共有するとともに、授業の導入や展開、まとめにおける具体的な指導法の実践を通して高める。
家庭	- 何をどのように作るかという計画を大事にして指導しているが、児童の興味関心を持続させるような指導計画・評価計画を改めて構築する必要がある。 - 技能面の個人差を意識した指導計画と授業展開を意識する必要がある。	- ワークシートを用いて目的や生活にそのように生かしていくかを考えさせることで、自分に合った計画（めあて）をもたせる。 - 裁縫や調理実習では、全体指導時以外にも、個人でタブレットを用いて写真や動画を見て確認させ、必要な時に技能を振り返ることができるようにする。
体育	- 基本的な技能をスモールステップで指導しているが、さらに段階を踏んだ指導が必要である。 - 各自の課題にあっためあての設定の仕方と課題を解決するための場の選び方、またその振り返り方の指導法に課題がある。	- 技能分析を行い、苦手な児童がどこでつまづくかを予想した指導法、場の設定について検討する。 - タブレットを使い、互いの動きを録画し、映像を基に技能ポイント等について振り返ったり伝え合ったりできるようにする。自分の課題に合った場が選べるような支援シートやアプリを作成し活用する。 - 自分やグループの課題を把握でき、自分の課題に対して具体的に振り返りができる学習カードを用意する。
外国語	- 基本の語彙や表現の習得の場面でパターン練習化しないよう、児童が自分の気持ちや考えを伝えようとする言語活動を行うためのコミュニケーションの場を設定する必要がある。 - やり取りを行う際に、その場で質問したり質問に答えたりすることの指導法に課題がある。	- タブレットを用いて写真やイラストを見せながら相手に伝えるなど、自分が伝えたい内容を明確にし、必要な語彙やフレーズを自分で選び取れるような活動の時間を毎単元に設定する。その際、ALT やデジタル教科書を活用し必要な音声等に適宜触れられるようにする。 - 高学年になっても、中学年の外国語活動で扱った表現を言語活動で意識的に繰り返し取り扱い、それらの表現を用いながらやり取りを工夫できるようにする。